

令和6年8月8日16時43分頃の日向灘の地震について（第2報）
及び南海トラフ地震関連解説情報（第1号）について

令和6年8月8日16時43分頃の日向灘の地震について、地震や津波に関する概要や留意事項をお知らせします。

また、9日15時30分に「南海トラフ地震関連解説情報（第1号）」を発表しました。南海トラフ沿いの地震活動状況等についてお知らせします。

詳細は別添資料をご覧ください。

本件に関する問い合わせ先

（令和6年8月8日16時43分頃の日向灘の地震について）

地震火山部 地震津波監視課

電話 03-6758-3900（内線 5132）

（南海トラフ地震関連解説情報（第1号）について）

地震火山部 地震火山技術・調査課

電話 03-6758-3900（内線 5244）

防災上の留意事項と今後の見通し

（防災上の留意事項）

- ・ 揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっていますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情が無い限り危険な場所に立ち入らないなど身の安全を図るよう心がけてください。

（今後の見通し）

- ・ 過去の事例では、大地震発生後に当該地域で同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度6弱程度の地震に注意してください。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。

（南海トラフ地震との関連について）

- ・ 今回の地震の発生により、気象庁は8月8日19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。政府では、南海トラフ地震防災対策推進地域に対して、地震発生から1週間、日頃からの地震への備えの再確認や、揺れを感じたら直ちに避難できる態勢をとるよう呼びかけています。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

地震の概要

検知時刻 (最初に地震を検知した時刻)	8 月 8 日 16時43分
発生時刻 (地震が発生した時刻)	8 月 8 日 16時42分
マグニチュード	7.1 （暫定値）
発生場所	日向灘 深さ 31km （暫定値；速報値 深さ約 30km から更新）
発震機構	西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震
震度	【最大震度 6 弱】宮崎県の日南市(にちなんし)で震度 6 弱を観測したほか、東海地方から奄美群島にかけて震度 5 強～1 を観測
地震活動の状況 8 月 9 日 14時00分 現在	今回の地震発生後、震度 1 以上を観測した地震が 13 回発生（震度 3：1 回 震度 2：4 回 震度 1：8 回）
長周期地震動の観測状況	宮崎県南部山沿いで長周期地震動階級 3 を観測

令和6年8月9日14時現在

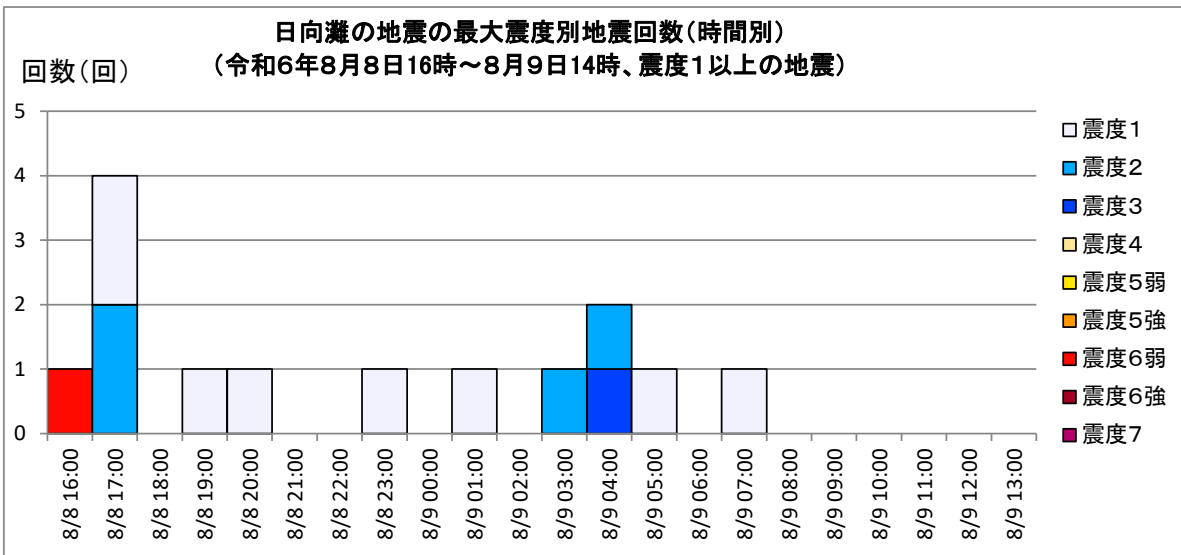
日向灘の地震の最大震度別地震回数表

令和6年8月8日16時～8月9日14時、震度1以上

(注)掲載している値は速報のもので、その後の調査で変更する場合があります。

日別	最大震度別回数									震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	
8/8 16時～24時	5	2	0	0	0	0	1	0	0	8	8	
8/9 00時～14時	3	2	1	0	0	0	0	0	0	6	14	
総計(8月8日～)	8	4	1	0	0	0	1	0	0		14	

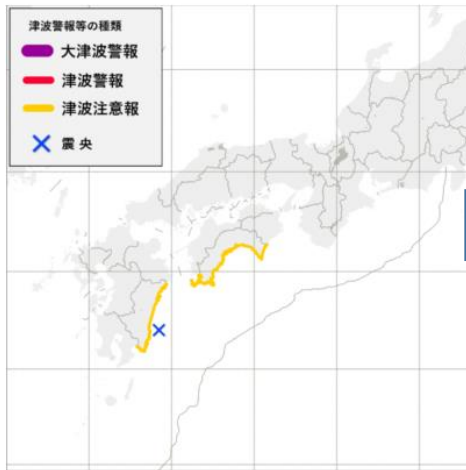
時間別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計		
8/8 16時-17時	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1		
17時-18時	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4	5		
18時-19時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
19時-20時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6		
20時-21時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7		
21時-22時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
22時-23時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
23時-24時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8		
8/9 00時-01時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8		
01時-02時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9		
02時-03時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
03時-04時	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	10		
04時-05時	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	12		
05時-06時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13		
06時-07時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13		
07時-08時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	14		
08時-09時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
09時-10時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
10時-11時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
11時-12時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
12時-13時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
13時-14時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
総計(8月8日～)	8	4	1	0	0	0	1	0	0	14			



津波警報等発表状況

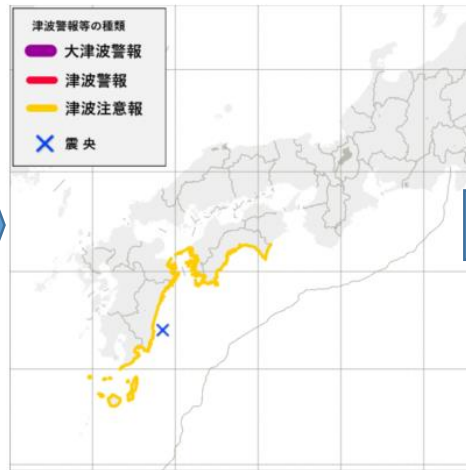
津波注意報は全て解除しています。

8月8日16時44分発表



津波注意報：
宮崎県、高知県

8月8日16時52分発表



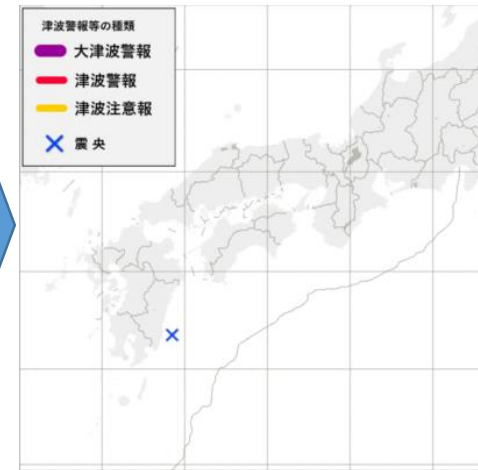
津波注意報：
愛媛県宇和海沿岸、高知県、
大分県豊後水道沿岸、
宮崎県、鹿児島県東部、
種子島・屋久島地方

8月8日19時00分発表



津波注意報：
宮崎県

8月8日22時00分発表

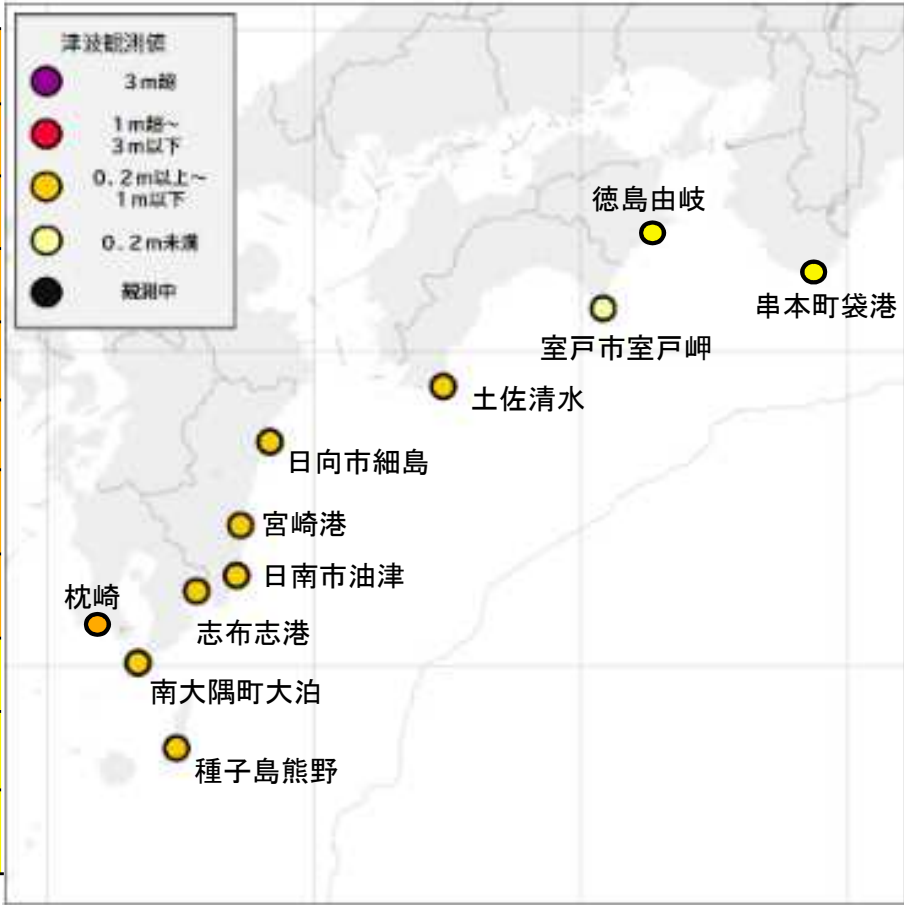


津波注意報を
全て解除

津波の観測状況

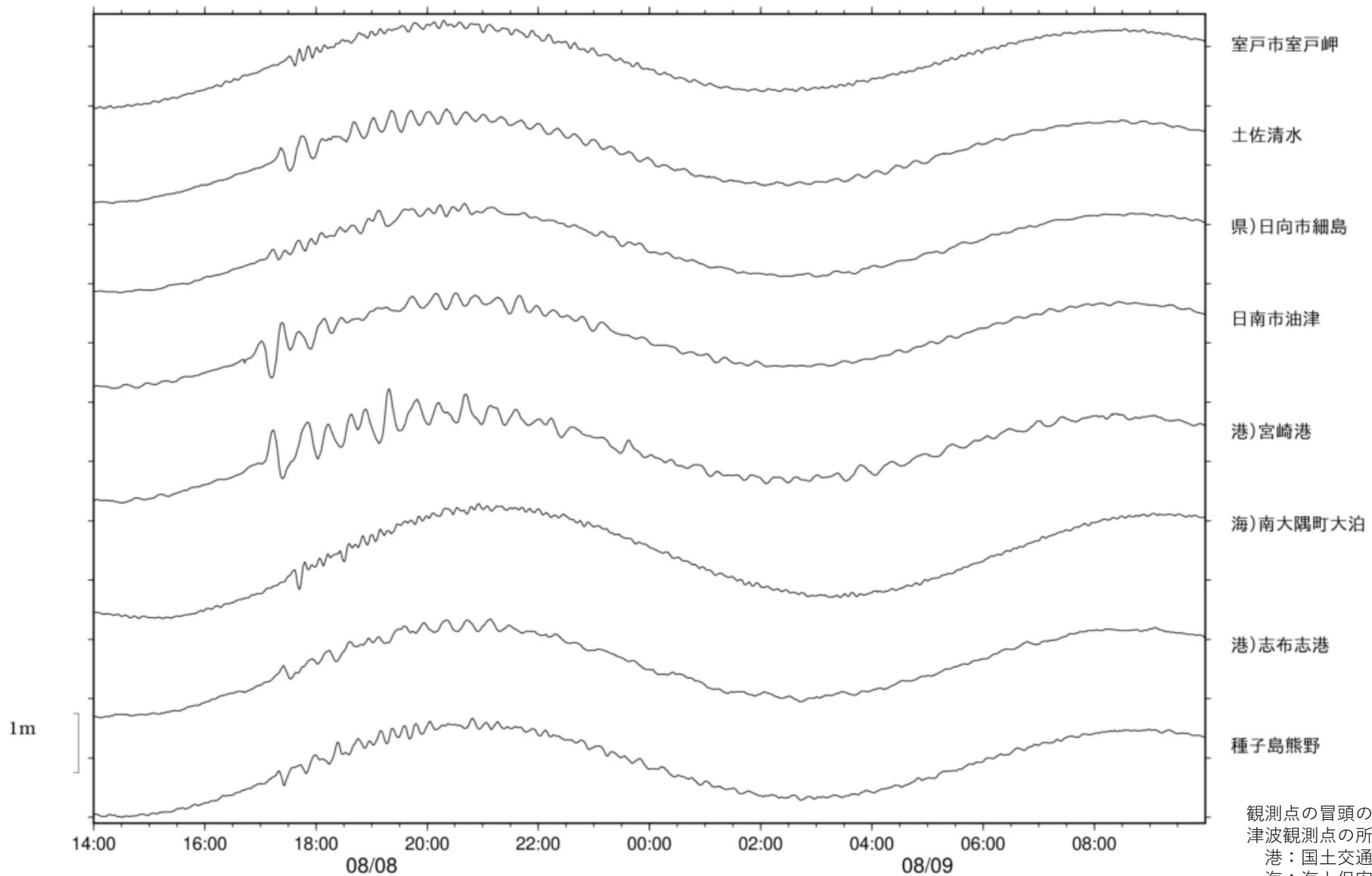
【主な観測点の観測値】

観測点名	該当予報区名	第一波 到達時刻	これまでの 最大波	高さ
宮崎港	宮崎県	8日17:04	8日19:18	0.5m
日南市油津	宮崎県	--	8日17:23	0.4m
土佐清水	高知県	8日17:15	8日17:46	0.2m
日向市細島	宮崎県	8日17:06	8日19:07	0.2m
南大隅町大泊	鹿児島県東部	--	8日17:48	0.2m
志布志港	鹿児島県東部	--	8日17:25	0.2m
種子島熊野	種子島・屋久島地方	--	8日18:23	0.2m
枕崎	鹿児島県西部	--	8日19:03	0.2m
串本町袋港	和歌山県	--	8日19:00	0.1m
徳島由岐	徳島県	8日17：44	8日19:36	0.1m
室戸市室戸岬	高知県	--	8日17:42	0.1m



※検潮所での津波の高さです。沿岸の地形の影響などにより、局所的に高くなることもあります。

津波波形図



観測点の冒頭の記号は、
津波観測点の所属機関を表す。
港：国土交通省港湾局
海：海上保安庁
県：宮崎県

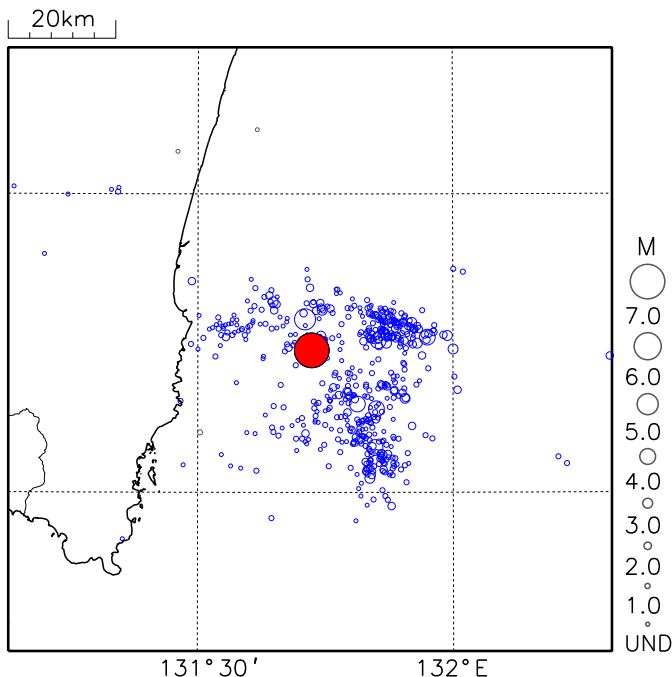
今回の地震活動

震央分布図（詳細図）

震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

深さ0 -- 100km、 M 全て

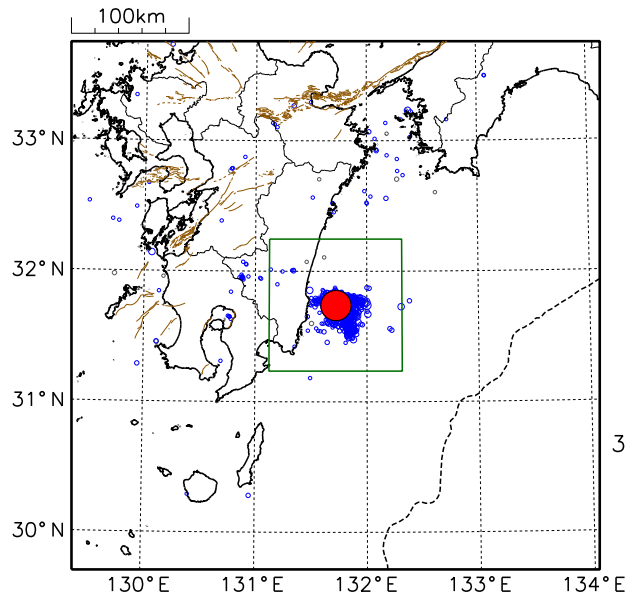
2024 08 08 14:00 -- 2024 08 09 12:50



震央分布図（広域図）

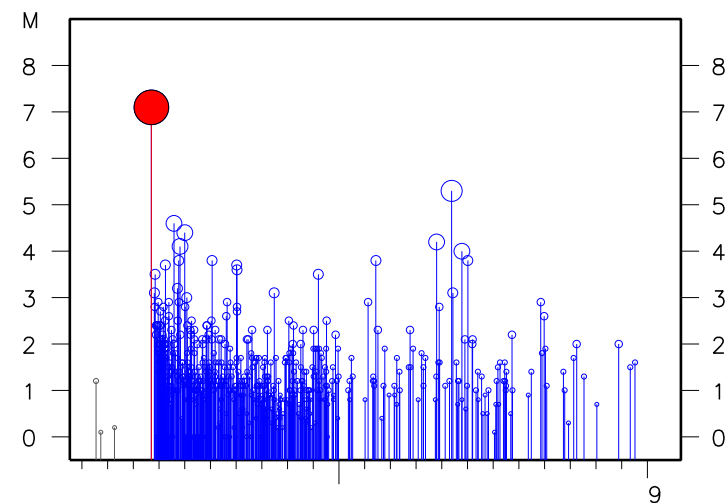
深さ0 -- 100km、 M 全て

2024 08 08 14:00 -- 2024 08 09 12:50



震央分布図（詳細図）の地震活動経過図

2024 08 08 14:00 -- 2024 08 09 12:50



(震源の色について) 赤色：今回の地震、青色：今回の地震より後に発生した地震、灰色：今回の地震より前に発生した地震

- ・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- ・震央分布図中の黒色の点線は、海溝軸を示す。

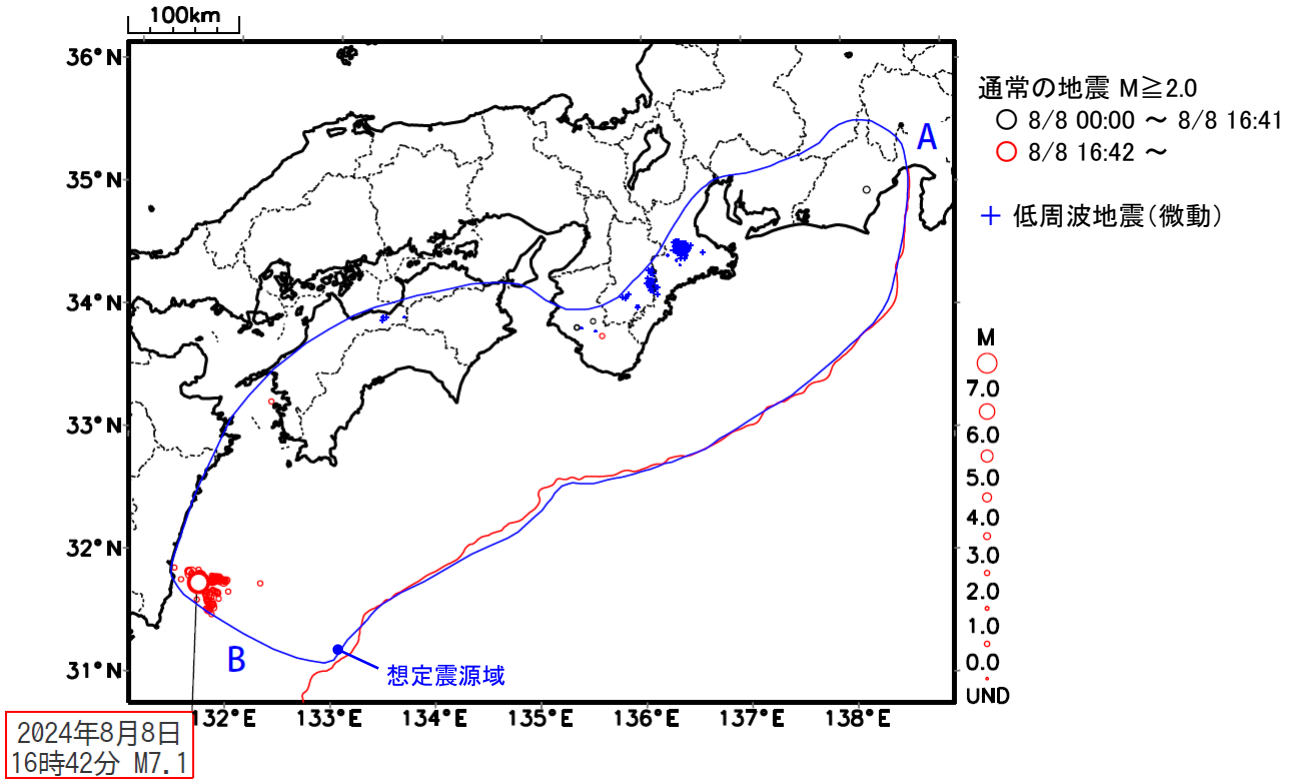
<資料の利用上の留意点>

- ・表示している震源は、速報値を含みます。
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

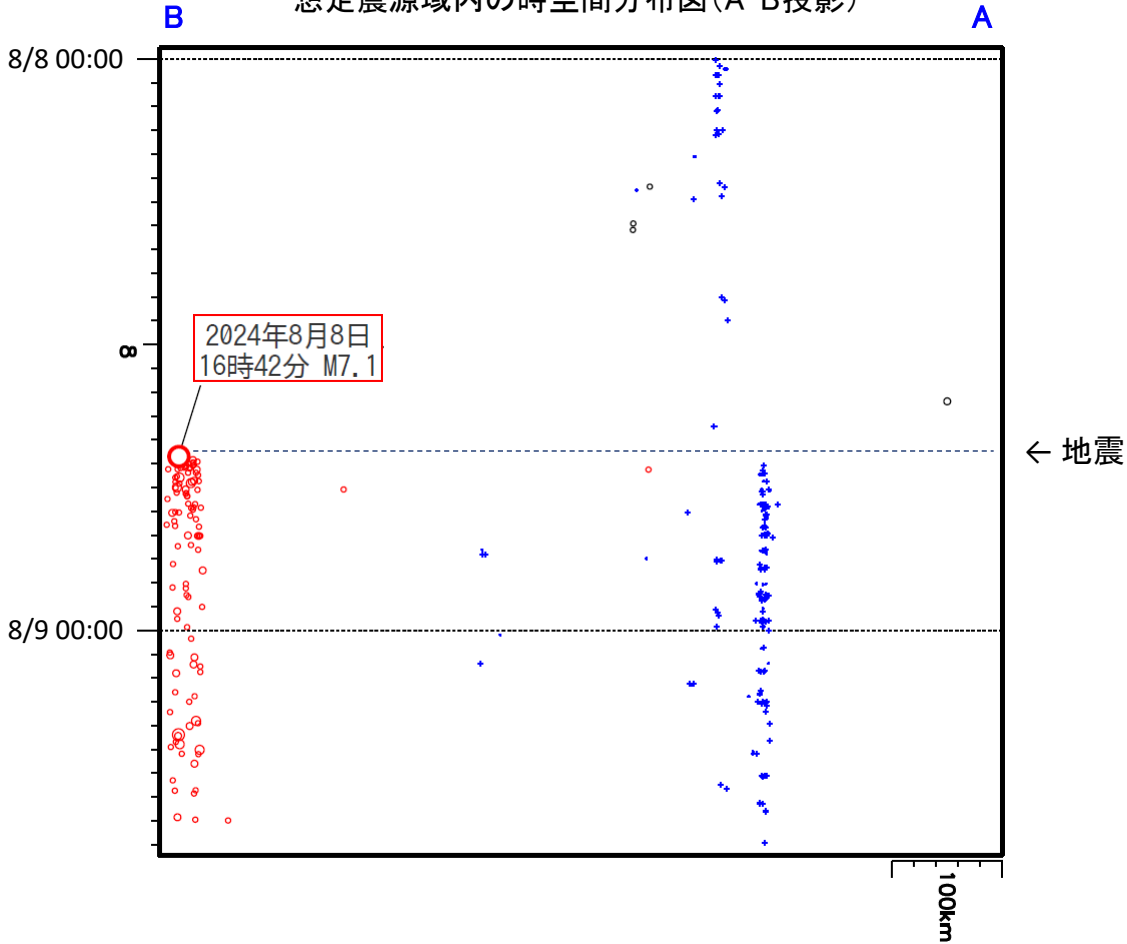
2024年8月8日日向灘の地震 想定震源域全体の地震活動

震央分布図

(2024年8月8日00時～8月9日09時、深さ0～60km)



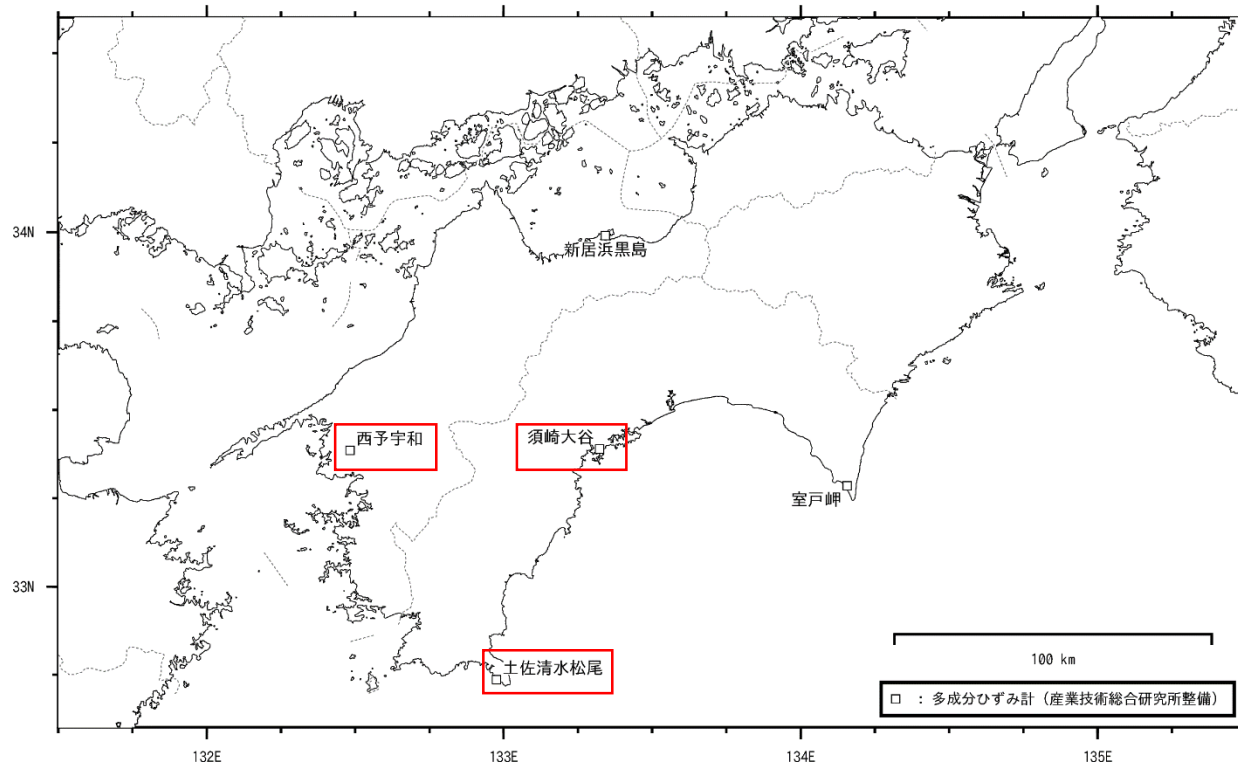
想定震源域内の時空間分布図(A-B投影)



8月9日10時00分現在のひずみ観測状況

8月8日16時43分の日向灘を震源とする地震(M7.1)に伴うステップ状の変化が観測されていますが、地震後に通常みられる変化以外は今のところ捉えられていません。

ひずみ観測点分布図

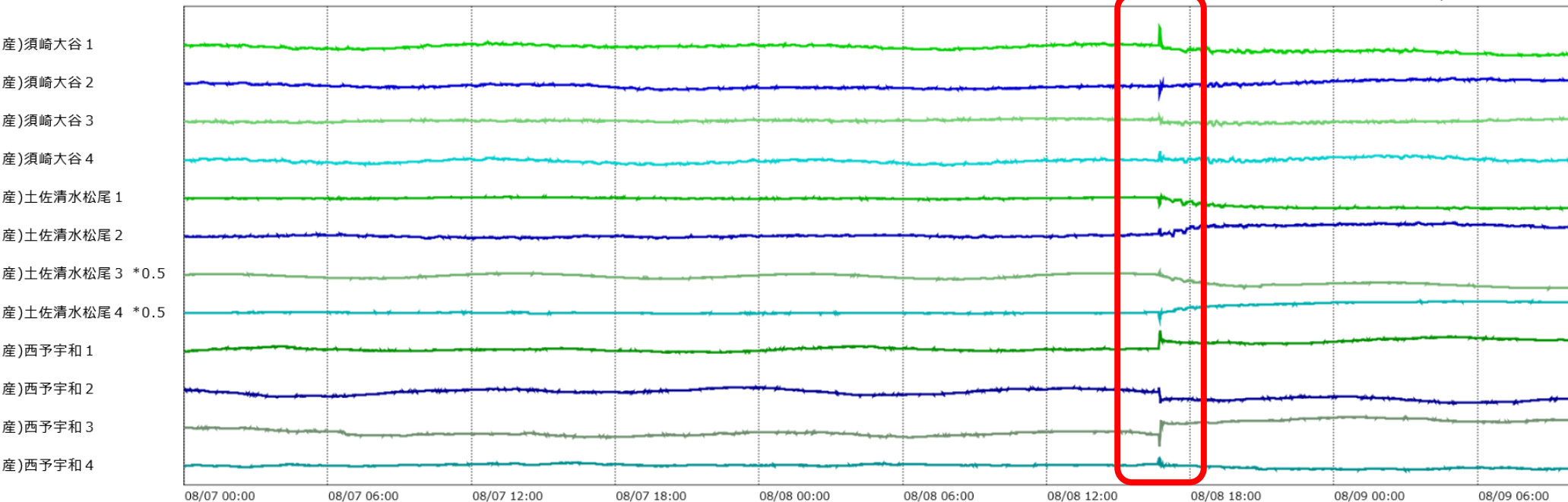


: 次頁にひずみ変化を掲載した観測点

8月9日10時00分現在のひずみ観測状況

地殻ひずみ変化(補正分値)

今回の地震
に伴う変動



グラフの左横に「*0.5」と示したひずみ変化は、
振幅を0.5倍にして表示しています

グラフの上向きの変化: 伸びの変化
グラフの下向きの変化: 縮みの変化

須崎大谷、土佐清水松尾および西予宇和は産業技術総合研究所のひずみ計です

※マグニチュード7.1の地震に伴うステップ状の変化が観測されていますが、
地震後に通常みられる変化以外は今のところ捉えられていません。

南海トラフ地震関連解説情報（第1号）

＊ ＊ 見出し ＊ ＊

8月8日16時43分頃に日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。この地震の発生に伴って、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられたことから、8月8日19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

＊ ＊ 本文 ＊ ＊

8月8日16時43分頃に日向灘を震源とするマグニチュード7.1（モーメントマグニチュード7.0）の地震が発生しました。この地震の震源付近では、その後も地震活動は活発な状態が続いています。

8日16時から本日（9日）14時までに南海トラフ地震の想定震源域で発生した震度1以上を観測した地震の回数（速報値）は次の通りです。

8日16時から24時まで 8回（震度6弱：1回、震度2：2回、震度1：5回）

9日00時から14時まで 6回（震度3：1回、震度2：2回、震度1：3回）

また、ひずみ観測点では、マグニチュード7.1の地震に伴うステップ状の変化が観測されていますが、地震後に通常みられる変化以外は今のところ観測されていません。

8月8日の地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられたことから、8月8日19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。

政府では、南海トラフ地震防災対策推進地域に対して、8日の地震発生から1週間、日頃からの地震への備えの再確認や、揺れを感じたら直ちに避難できる態勢をとるよう呼びかけています。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるマグニチュードです。気象庁が地震情報等で、お知らせしているマグニチュードとは異なる値になる場合があります。

＊ ＊ 次回発表予定 ＊ ＊

今後も、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。次回の情報発表は、10日15時30分頃を予定しています。

なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

＊ ＊ （参考） 南海トラフ地震に関連する情報の種類 ＊ ＊

【南海トラフ地震臨時情報】

情報発表条件：

○南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合

○観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

情報名に付記するキーワード：

○「調査中」 下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合

・監視領域内※1でマグニチュード6.8以上の地震※2が発生

・1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と

認められる変化を観測

・その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測

○「巨大地震警戒」 想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合

○「巨大地震注意」

・監視領域内※1において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震※2が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く）

・想定震源域内のプレート境界において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合

○「調査終了」（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

※1 南海トラフの想定震源域及び想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲

※2 太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く

【南海トラフ地震関連解説情報】

情報発表条件：

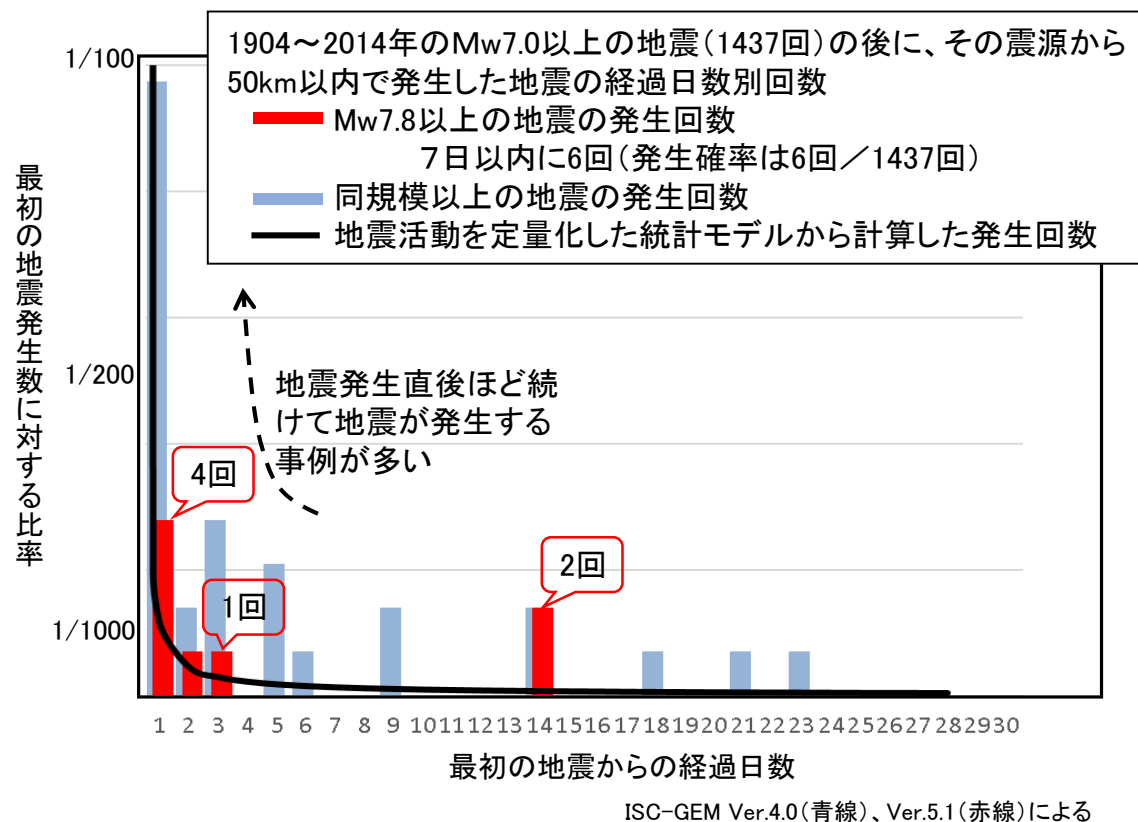
○観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合

○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く）

※すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合があります。

地震が続けて発生した事例

(Mw7.0以上の地震発生後にMw8クラス以上の地震が発生した世界の事例)

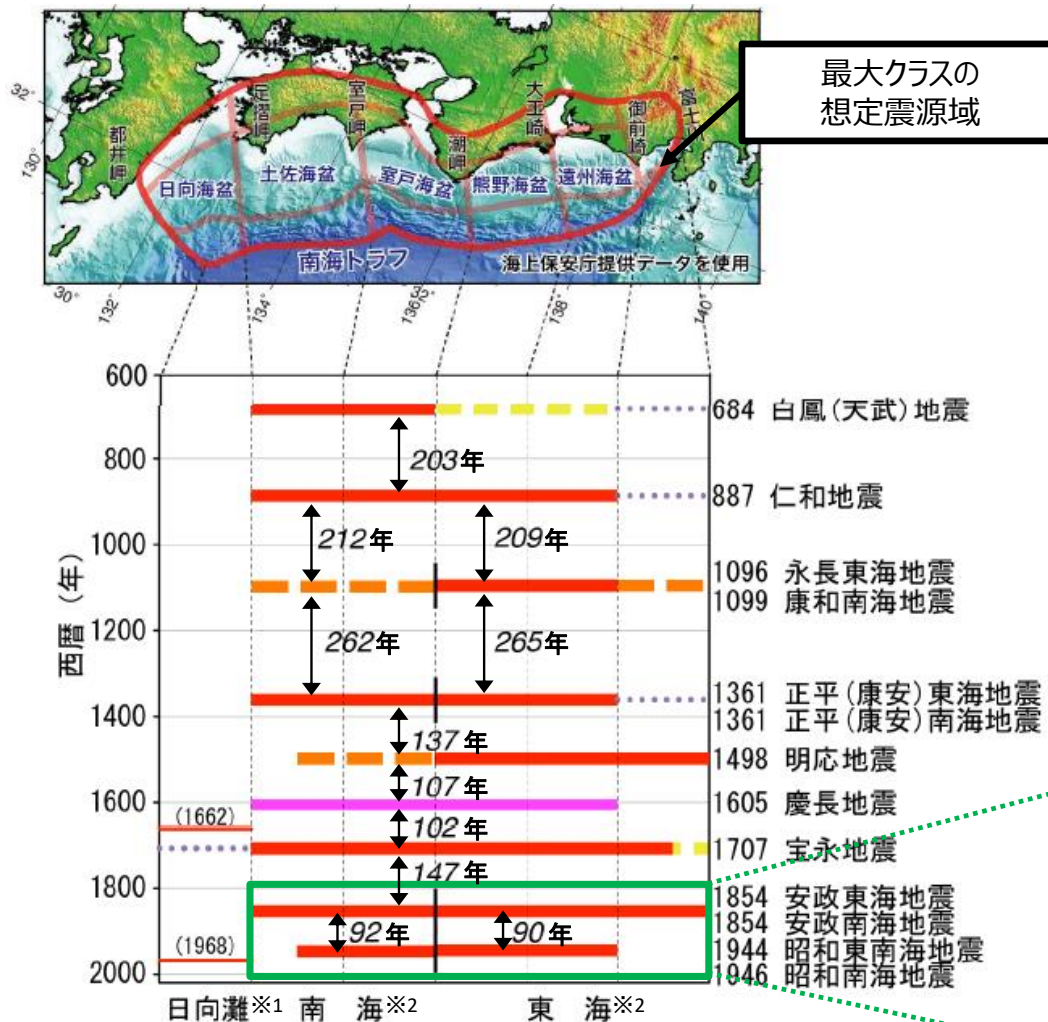


Mw7.0以上の地震発生後、7日以内にMw8クラス以上(Mw7.8以上)の大規模地震が発生するのは、数百回に1回程度です。異常な現象が観測される前の状況^(注)に比べて数倍高くなっています。

(注)30年以内に70～80%の発生可能性があるとされる状況です。南海トラフ沿いの地域において「30年以内に70～80%」の可能性でM8～9クラスの地震が発生するという確率は、7日以内に換算すると概ね千回に1回程度となります。これと、世界における続けて発生した地震の頻度を比較しています。

- 地震が続けて発生したこれらの事例から、南海トラフ地震の想定震源域では、新たな大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。
- 続けて地震が発生する可能性は、先に発生した地震が起こった直後ほど高く、時間を経るにつれて低くなっていきますが、ゼロになるわけではありません。

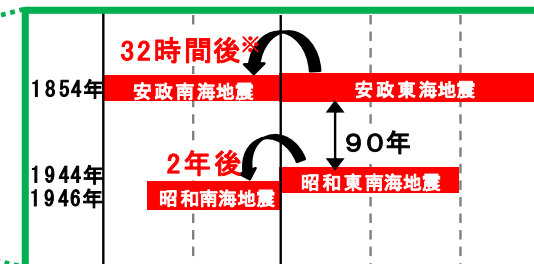
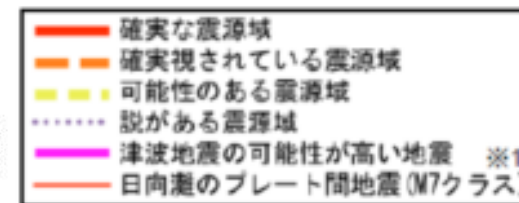
(参考)過去に発生した南海トラフ地震



●過去に南海トラフで発生した巨大地震の規模

地震名称	地震本部による	内閣府による
宝永地震		8.9
安政東海地震		8.6
安政南海地震		8.7
昭和東南海地震	8.1 ~ 8.2	8.2
昭和南海地震	8.2 ~ 8.5	8.4

注) 地震の規模はモーメントマグニチュード(Mw)



※最近の調査では、30時間後との結果も報告されている。

※1 「日向灘のプレート間地震(M7クラス)」として、現在知られているこの海域での最大規模の地震(『地震活動総説』(宇津, 1999)では、1662年の地震がM7.6、1968年の地震がM7.5)を記載しています。

※2 東海～南海には、現在知られている大規模地震(『地震活動総説』(宇津, 1999)では、正平(康安)東海地震以降の地震はいずれもM7.9以上)を記載しています。

※本資料は以下を基に作成しました。

「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」(地震調査研究推進本部) https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/nankai_2.pdf

「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性について・別添資料」(内閣府) https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/tyosabukai_wg/pdf/h290825betten.pdf

「防災対応のための南海トラフ沿いの異常な現象に関する評価基準検討部会とりまとめ・別冊」(内閣府) https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/pdf/h301225bessatsu_02.pdf